

小児麻酔急変対応シミュレーション

－ 喉頭痙攣・困難気道 －

企画の概要

本セミナーは、日本小児麻酔学会教育委員会が実施している小児麻酔急変対応シミュレーション（JSPA-eSIM）と同じ内容を、第 31 回日本小児麻酔学会大会において開催するものです。小児麻酔に携わる者であれば誰もが遭遇する危機的状況のうち、とくに緊急度の高い「喉頭痙攣」と「困難気道」を取り上げ、その対応を実践的に学んでいただきます。

当日のプログラム（10 月 31 日（土）13：00～17：15 予定 12：30 受付開始）

- ① **喉頭痙攣シミュレーション** 小児麻酔で最も遭遇頻度の高い気道の危機である喉頭痙攣を題材に、発症の認知から段階的な対応、応援要請とチームでの対応までを一連の流れとして経験します。
- ② **困難気道ハンズオン** 声門上器具越しの気管支ファイバー挿管の練習や、DAM（困難気道管理）アルゴリズムの確認など、実践的な内容で構成しています。器具や手技の勘所を、指導者のもとで実際に手を動かして繰り返し確認していただく時間です。
- ③ **困難気道シミュレーション** ハンズオンで身につけた手技を、急変シナリオの中で実際に使います。手技そのものだけでなく、判断・切り替えのタイミング、チームへの共有までを含めて経験していただきます。
- ④ **質問の時間** 上記の内容に加え、日ごろの小児麻酔について感じている疑問にお答えする時間も設ける予定です。

当日は受講者の皆様に 5 名ずつの 2 グループに分かれていただき、①喉頭痙攣シミュレーションと③困難気道シミュレーションについて、各グループが 1 つずつを実際に体験し、もう一方は見学として交代でご参加いただきます。

事前オンライン学習と当日の実技

座学で習得できる基礎知識は、あらかじめオンラインで学習していただきます。事前学習は「喉頭痙攣」1 時間、「困難気道」1 時間の計 2 時間・2 コマを予定しています。当日は知識の伝達に時間を割く必要がないため、限られた時間のすべてを「学んだ知識を実際に身体で使えるようにする」ための練習にあてることができます。知識を「知っている」段階から「できる」段階へと進めることが、本セミナーのねらいです。

さらに、迅速反復練習法（Rapid Cycle Deliberate Practice：RCDP）を取り入れ、その場でフィードバックを受けながら短いサイクルで何度もやり直す形式とすることで、一人ひとりの練習機会を可能な限り多く確保する工夫をしています。

経験豊かなデブリーファーによる振り返り

各セッションには、シミュレーション教育の経験を十分に積んだデブリーファーが加わります。単なる正解の解説にとどまらず、参加者ご自身がその場で何を考え、なぜそう行動したのかを言語化していただくことで、明日からの臨床につながる気づきを持ち帰っていただきます。

手術室で行う In-situ シミュレーション

本セミナーは、実際の手術室をお借りして行う In-situ シミュレーションです。日常の診療で使用している環境そのもので、高機能シミュレーターを用いて実施するため、実際の急変時の様子を高い臨場感をもって再現することができます。普段の勤務先を離れた学会の場で、実際の手術室と高機能シミュレーターを用いて急変対応を経験できる、たいへん貴重な学習機会です。多くの皆様のご参加をお待ちしております。